

令和4年度 学校自己評価

重点目標	学校努力点 「『じりっ』(自律・自立)できる生徒の育成」 ～深い学びを目指した授業づくりとICT活用を通して～			
	努力目標	重点項目	主な取組内容	評価結果と課題
学習指導部	自身の学習を自律する力、また、自立して考えることのできる力をもった生徒の育成	○「なかまなビジョン」に基づく授業の工夫 ○基礎的・基本的な学力の定着のための基盤づくり	○チャイムで授業開始 ○授業の目標の明確化 ○タブレットPCを活用した学習指導の充実	各教科で学校努力点を達成するための授業実践を検討し、実践を行った。昨年度と比べ、コロナ禍による授業内容の制限も緩和されたため、ペアやグループでの対話的な学びを取り入れた実践を行うことができた。また、ICTの活用として、ロイロノートやミライシードなど、タブレットPCのアプリを活用した授業を行ったが、これらの活用方法について課題が残るため、検討していく。
進路指導部	自己の将来を見据え、解決すべき課題を見つけ、主体的に取り組むことができる生徒の育成	○進路への関心 ○進路の主体的な設定と決定	○職業学習 ○SDGsの学習 ○教育相談、進路相談 ○進路決定 ○キャリア・パスポートの作成	3年ぶりに再開した職業学習では、それぞれの企業についてグループで別れ、体験を行った。事前学習にて職業のことを調べたこと、実際に体験を通じて学んだことを各自でまとめ、ワークシートに書き、キャリア・パスポートとして綴じすることで、生徒のキャリア形成に生かした。3年生は、積極的に上級学校への参加、進路調べなどを行うことにより、自分の進路について考えるきっかけとなった。今後は、より具体的な目標を見つけられるように、RIASEC診断なども用いるなどの新たな実践も行いたい。
生徒指導部	服装や持ち物、時間など学校のルールを守って行動する規範意識を高め、集団の一員として自律した生活ができる生徒の育成	○授業規範の確立 ○基本的な生活習慣の定着 ○いじめの予防 ○不登校生徒への対応	○チャイム前着席の呼び掛け ○朝のあいさつ運動 ○いじめに関する指導 ○子ども応援委員会などの外部機関との連携	朝に余裕をもって登校することで、朝の活動に集中して取り組む姿が見られる。また、チャイム前に室長などからの声掛けがあり、ほとんどの生徒が授業に集中して取り組むことができている。また、生徒会活動の取り組みもあり、自ら元気づけあいさつをする生徒の姿がよく見られる。一方で、相手を思いやらない発言やからかいなどが、SNS上を含めて見られた。また、学校のルールから逸脱する生徒も一部見られた。集団生活の中で、ルールを守る大切さを自分自身で考えさせていく必要である。 近年、不登校生徒の増加が課題となっている。専門家からの確にアドバイスを受けながら、一人一人に寄り添った指導を進めていきたい。
保健指導部	自分の体を自分で守ることのできる生徒の育成	○新型コロナウイルス予防 ○熱中症予防と対策 ○かぜ・インフルエンザ等の冬の疾病予防	○朝の健康観察 ○マスク着用とこまめな手洗い ○思春期セミナー ○換気強化週間	毎朝、担任による健康観察を行った。また、保健だよりで登校前の健康チェックをするよう呼びかけたり、掲示物で感染防止対策などの啓発を行ったりした。保健室利用のルールは守られている。利用状況は、10月が一番多かった。委員会活動では、1月に集会で冬の健康クイズについて発表を行った。また、換気チェック活動に取り組んだ。
特活指導部	生徒が自主的・主体的に学校生活を送る態度を身に付け、自ら考え、行動する力を身に付けられるようにする。	○よりよい集団づくり ○リーダー育成 ○学校行事への参加	○生徒会活動 ○部活動 ○東港リスペクトキャンペーン ○INGキャンペーン	昨年度の反省に「生徒が自分のよさを発揮できたと思えるような場面を設定すること」が上がっていたことから、本年度は、体育大会に向けた休み時間中の長縄練習や、合唱コンクールに向けた各学級の合唱練習に取り組んだ。その結果、学校生活アンケートの「行事等様々な活動の中で、自分のよさを発揮できましたか」という項目に対して、80%近くの生徒が「できた」と答えている。 今後は、生徒が学校行事等で頑張っている姿を、保護者の方々に伝えるように努めていきたい。